

明治八年  
大阪  
錦画新聞  
第十九号

盗本  
みまげ子

きりくは東京よて去年のころの  
事をいふ女心の浅州馬道猿智  
恵たくむ猿寺地内二入りとドレハ  
寡婦と下女。女主人へ下女小首  
主とさせて他所へ歸りて家と  
見ま六燈火消してくぐりて下女へ  
柱小まぐりて箆等へあけて品物も  
取らして有ゆふ。やがて女主人へ繩と解き  
委細を問へバ下女へ盗賊遣入てあくと。震ひかき語をいふ。女主人へ氣の毒あ。思ひ居る内  
程もあく。盗賊へいへと進と。聞よりすくみカ下女。井戸へ身を投死しりとも。あとも聞  
け盗賊と。令總せり。好討と。さるくこへき時節でありまこと。正情堂九化記  
身と投し井戸なりも物泥等と下女の欲さや海の中ありま

あ己文板



明治八年 大阪錦画新聞19号 文庫10-8064-18  
早稲田大学図書館蔵 / Waseda University Library

